

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【地理歴史／世界史A】

1. 対象（実施を想定する学校・生徒の実態の概要）

工業科2年で、就職希望、四年制大学、専門学校への進学希望の生徒が混在している。1年次は現代社会を履修し、2年次は世界史Aと日本史、地理のA科目のどちらかを選択して履修している。科目の導入として扱った「世界史へのいざない」では、調べ学習やペアワーク、グループワークを行い、生徒自らが主題を設定して前向きに取り組んだ。

2. 単元名「急変する人類社会（大衆社会の出現、世界の一体化と人口移動）」（全2時間）

3. 単元で育成すべき資質・能力の三つの柱につながる単元の評価規準

①知識・技能	19世紀後期から20世紀前半までの大西洋を挟む地域を中心とした、産業革命、人口移動、普通選挙の拡大などの世界の動向と人類社会の変化の特質を理解するとともに、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
②思考・判断・表現	19世紀後期から20世紀前半までの大西洋を挟む地域を中心とした、産業革命、人口移動、普通選挙の拡大などに着目して、諸事象の推移、事象相互のつながりなどを視点として、世界の動向と人類社会の変化の特質について多面的・多角的に考察し、表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と人類社会の変化について、見通しを持って学習に取り組もうとし、当時の日本とのかかわりや現代とのつながりなどにも関心を持ち、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。

4. 本時の目標（略）

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

解決したい課題や問い
19世紀後期から20世紀前半に、社会はどのように変化したか。（論述課題）

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
<ul style="list-style-type: none"> ・地図とグラフ「国際的な人口移動と合衆国の移民及び人口増加の様子」 ・文章「合衆国の奴隷解放と中国、インド、南欧、東欧の情勢」 ・文章「アメリカの移民制限（移民法）」 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ「国別の工業生産割合」 ・文章「第2次エネルギー革命と産業革命（イギリスとアメリカの産業革命期の主要エネルギーと主な生産物）」 ・文章「T型フォードの大量生産（労働者の地位向上と自動車の普及）」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章と年表「アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、日本の議会制度、選挙権拡大の様子」 ・文章「世界の主要国の工業化（19世紀後半）」
想定される活動	想定される活動	想定される活動
<p><国際的な人口移動の要因の考察></p> <p>生徒は当時、国際的な人口移動が盛んに行われていたこと、世界中からアメリカへ移民が流入したこと、アメリカでは大規模に人口増加が起こったことを把握し、その理由を考察する。また、移民制限による移民減少の様子を把握する。</p>	<p><19世紀後半のアメリカ合衆国の工業発展の要因の考察></p> <p>生徒は英米の比較から両国の産業革命の違いを理解し、その重要な因子が資源であることに着目しながら、理由を考察する。また、T型フォードの生産の様子から大量生産方式が登場したことや、労働者など一般の人々にも自動車が普及し始めることを理解する。</p>	<p><制限選挙と普通選挙の違い、選挙制度変化の要因の考察></p> <p>生徒は各国の選挙制度について、選挙権制限の要件やその変遷を把握しながら、制限選挙から普通選挙に変化する様子、両者の違いや変化の要因を考察する。</p>

対話と思考（対話を通じた協動的な問題解決のプロセス）

単元のながれ 講義 → 知識構成型ジグソー法 → 論述課題

第1次（1時間）

【講義（10分）】大衆社会の出現（マスメディア、義務教育などについて）

【エキスパート活動（40分）】

<エキスパート課題A>なぜ当時、国際的な人口移動が盛んに行われていたのだろうか？

<エキスパート課題B>

アメリカ合衆国はなぜ工業生産でイギリスを上回ることができたのか？

<エキスパート課題C>制限選挙と普通選挙の違いは何だろうか？

第2次（1時間）

【ジグソー活動（20分）】【クロストーク（15分）】【論述課題（まとめ15分）】

思考のプロセス

【エキスパート活動】

<エキスパートAから>19世紀後半から20世紀の初めにかけて、アフリカ中部、中国、インド、日本、ヨーロッパ諸国から、**貧困や飢餓などの理由で新しい仕事を求めて**、南北アメリカ大陸、アフリカ北部、オーストラリアなどへの移民(人口移動)が、世界的に起きた。なかでも、「移民の国」の**アメリカ合衆国**には多くの移民が仕事を求めて集まり、移民と出生率の向上で、1870年から30年ほどで、アメリカの人口は倍になった。また、黒人の奴隷も解放されたので、労働力が急増した。ヨーロッパからの移民は、それまでプロテスタント系が多かったが、東ヨーロッパや南ヨーロッパからの移民が増え、それまでの移民と区別して「**新移民**」と呼ばれた。それまでの住民は「新移民」に仕事を奪われることも多く、排斥運動が起こって、**移民法**が制定され、移民を制限するようになった。

<エキスパートBから>18世紀のイギリスで始まった産業革命は、石炭を主なエネルギー源にして、繊維産業や製鉄業が盛んになった。19世紀終わりからは、石油を主なエネルギー源とするようになって、**電力の利用**も始まり、**重化学工業**や**機械工業**が盛んになった。このエネルギー源の転換は「**第2次エネルギー革命**」と呼ばれる。アメリカ合衆国はこのころに**産業資本家**が成長してきたし、国内で石油が採れたので、初めから石油や電力を利用して、産業を起こしていった。イギリスは蒸気機関で動かしていた機械を、石油や電力で動く機械に換える必要があったため、アメリカに遅れた。20世紀になるまでには、アメリカ合衆国は工業生産でイギリスを抜いて、世界一になった。20世紀に入ると、フォードが世界初の**大量生産**の自動車「T型フォード」を生産した。それまでの自動車に比べて安かったので、一般の労働者にも普及しはじめた。

<エキスパートCから>**普通選挙**は**選挙権の制限**を年齢だけでして、**制限選挙**は**選挙権の制限**を地位、財産、納税額などでしている。いろいろな国で19世紀から20世紀にかけて、次第に制限が緩和される方向になってきて、財産制限を緩めたり、男子だけの普通選挙にしたり、年齢制限を下げたり、女性に対する制限をなくしたりしていった。工業化した国では、多くの国民が労働者として納税をしたり、徴兵制で兵役に就いたりする**義務**がある中で、国会などの議会ができると、国民の意見を反映させようと、選挙で投票したり、立候補して議員となったりする**権利**を主張する運動が起こった。このように一部の国民ではなく、多くの国民が政治参加するようになっていった。

【ジグソー活動】【クロストーク】【論述課題】

<エキスパート資料の比較・統合の要点>（学習活動の始めに講義で説明された）義務教育やマスメディアが発達した**大衆社会**は、それまでに比べて、一般の人々の生活水準が向上したが、**均一化された社会**だ。それまでの時代は、産業革命を起こしたイギリスが「世界の工場」で、一番の工業生産国だったが、第2次エネルギー革命の影響で**アメリカ合衆国**がそれに代わった。アメリカ合衆国の工業化には、世界から多くの移民が集まってきたことも大きな影響を与えている。工業化した国々では、納税や徴兵の**義務**に対して、国民が議会を通じた政治参加の**権利**を主張して、**選挙権**が**拡大**していった。多くの労働者はそれまでより生活水準が向上したし、同じような政治参加の権利を持ったことが、大衆社会の形成につながった。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

19世紀後半から20世紀のはじめは、他の国に仕事を求めて移住する人々が多くいた。なかでも**アメリカ合衆国**には多くの移民が集まり、集まった労働力は**第2次エネルギー革命**で起こった**重化学工業**、**機械工業**などの新しい産業の労働力となった。逆にイギリスは第2次エネルギー革命への対応が遅れ、工

業生産はアメリカ合衆国に追い抜かれた。イギリスを含めて、工業化した国々では、納税や徴兵の**義務**に対する**権利**を主張して、**選挙権の拡大**につながった。これらの国では、国民が労働者として働くことで経済力がつき、みんながある程度平等に政治に参加することで、**大衆社会**ができあがっていった。